

小児看護学実習

目 的

子どもとその家族を理解し、健康の保持・増進に向けて、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

目 標

1. 小児各期の特徴を理解し、対象の成長・発達を促すための援助が実施できる。
2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象に必要な援助を考えることができる。
3. 健康障害のある対象への健康回復に向けた援助が実施できる。
4. 子どもを一人の個として尊重した援助ができる。
5. 看護チームの一員として自覚と責任ある行動をとることができる。

小児看護学実習Ⅱ

(健康障害をもつ子どもの看護)

目 的

健康障害のある子どもとその家族に対し、成長・発達に応じた看護の実際を学ぶ。

目 標

1. 子どもの発達段階や家族の状況から受け持つ子どもを理解できる。
2. 入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解できる。
3. 健康障害や発達段階に応じた生活援助を、安全を考慮し実践できる。
4. 子どもの権利を尊重し、治療や検査に応じた看護技術を実践できる。
5. 看護チームの一員としての自覚をもち、他のメンバーと調整・協働をはかり、看護を実践することができる。

内 容

対 象	内 容	対象選択の目安	
	看護のポイント	症状	疾患
健康障害のある子ども	1. 対象の理解	不機嫌 発熱 発疹 嘔吐 下痢 便秘 咳嗽 呼吸困難 チアノーゼ 痙攣 黄疸 脱水 ……など	肺炎 気管支炎 気管支喘息 上気道炎 急性胃腸炎 中耳炎 髄膜炎 尿路感染 伝染性疾患 川崎病 てんかん 血液疾患 腎疾患 膠原病 糖尿病 先天性脳脊髄疾患 整形疾患 ……など
	1) 形態的成長、機能的発達の観察と計測、身体発育の評価		
	2) 精神・運動機能の発達の観察と評価		
	3) 生育歴（出生状況、既往歴、予防接種状況など）		
	4) 家族の育児方針と育児行動		
	5) 病態生理、検査、治療と健康段階		
	2. 入院が対象に及ぼす影響		
	1) 疾病や入院が子どもの成長・発達に及ぼす影響		
2) 疾病や入院に対する家族の身体的・精神的・社会的側面			
3. 子どもや家族への健康回復に向けた生活指導			
4. 子どもの症状や発達段階に応じた生活援助			
1) 環境の調整 2) 食事 3) 排泄 4) 清潔			
5) 衣服の着脱 6) 睡眠 7) 遊び 8) 学習			
5. 事故防止に向けた援助			
転倒、転落、窒息、誤嚥など			
6. 診療に伴う援助技術			
与薬、輸液管理、検体採取（採血・採尿）、吸入、 腰椎穿刺・骨髄穿刺の介助			
7. 子どもの権利を尊重した関わり			
1) 子どもの自発性や意志の尊重			
2) プライバシーの保護			
3) プレパレーション・ディストラクション			
8. 保健医療福祉チームとの連携と看護者の役割の理解			

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
 - A ねらい：シミュレーション演習を通して実習場面のイメージ化を図り、対象に応じた看護について学ぶ。
 - 1) 小児看護場面におけるシミュレーション演習
 - 2) 援助計画の評価・修正
 - B ねらい：小児看護に必要な知識と技術を習得し、臨地実習の準備性を高める。
 - 1) 小児看護に必要な看護技術
 - 2) 『子どもの安全を守る看護』のDVD視聴
3. 病棟実習
 - 1) 実習開始前に、病院オリエンテーションを受ける。
 - 2) 病棟オリエンテーションを受ける。
 - 3) 援助は立案した援助計画に基づいて実践する。
 - 4) テーマカンファレンスを開催する。
 - 5) 実習終了後は、「健康を障害された子どもと家族への看護」について実習レポート用紙に記載する。

小児看護学実習Ⅱ評価表

釧路赤十字病院 4 B 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

項目	評定尺度	評定	
1. 発達段階の特徴が理解できる。	子どもの個別的な形態的成長と機能的発達、精神運動機能の発達、発育歴が、一般の発達段階をふまえて述べられる。	A	4
	子どもの個別的な形態的成長と機能的発達、精神運動機能の発達、発育歴が、一般の発達段階の特徴をふまえてほしい述べられる。	B	3
	子どもの個別的な形態的成長と機能的発達、精神運動機能の発達、発育歴が、一般の発達段階をふまえて少しでも述べられる。	C	2
	子どもの個別的な形態的成長と機能的発達、精神運動機能の発達、発育歴が述べられない。	D	0
2. 子どもの健康障害が理解できる。	子どもの健康障害について病態生理・検査・治療などの事実を整理し、解釈を加えながら述べられる。	A	4
	子どもの健康障害について病態生理・検査・治療などの事実を整理し、解釈を加えながらほしい述べられる。	B	3
	子どもの健康障害について病態生理・検査・治療などの事実を整理し、解釈を加えながら少しでも述べられる。	C	2
	子どもの病態生理・検査・治療が述べられない。	D	0
3. 健康障害が生活に及ぼす影響について理解できる。	健康障害が日常生活行動に及ぼす影響について述べられる。	A	4
	健康障害が日常生活行動に及ぼす影響についてほしい述べられる。	B	3
	健康障害が日常生活行動に及ぼす影響について少しでも述べられる。	C	2
	健康障害が日常生活行動に及ぼす影響について述べられない。	D	0
4. 健康障害によるニードの変化を理解できる。	健康障害が子どものニードに及ぼす影響について発達段階を踏まえながらアセスメントできる。	A	4
	健康障害が子どものニードに及ぼす影響について発達段階を踏まえながらほしいアセスメントできる。	B	3
	健康障害が子どものニードに及ぼす影響について発達段階を踏まえながら少しでもアセスメントできる。	C	2
	健康障害が子どものニードに及ぼす影響について発達段階を踏まえながらアセスメントできない。	D	0
5. 子どもとコミュニケーションがとれる。	子どもの発達段階や心理的特徴を理解し、対象に応じた関わりやコミュニケーションが工夫できる。	A	5
	子どもの発達段階や心理的特徴をほしい理解し、対象に応じた関わりやコミュニケーションがほしい工夫できる。	B	4
	子どもの発達段階や心理的特徴を少しでも理解し、対象に応じた関わりやコミュニケーションが少しでも工夫できる。	C	3
	対象に応じた関わりやコミュニケーションが工夫できない。	D	0
6. 入院が子どもに及ぼす影響について理解できる。	入院を余儀なくされた子どもの心理とその反応について述べられる。	A	4
	入院を余儀なくされた子どもの心理とその反応についてほしい述べられる。	B	3
	入院を余儀なくされた子どもの心理とその反応について少しでも述べられる。	C	2
	入院を余儀なくされた子どもの心理とその反応について述べられない。	D	0
7. 疾病や入院が家族に与える影響について理解できる。	家族の身体的・社会的影響、役割変化について述べられる。	A	4
	家族の身体的・社会的影響、役割変化についてほしい述べられる。	B	3
	家族の身体的・社会的影響、役割変化について少しでも述べられる。	C	2
	家族の身体的・社会的影響、役割変化について述べられない。	D	0
8. 家族の思いを理解できる。	家族の子どもに対する思いや健康障害に関する不安について述べられる。	A	4
	家族の子どもに対する思いや健康障害に関する不安についてほしい述べられる。	B	3
	家族の子どもに対する思いや健康障害に関する不安について少しでも述べられる。	C	2
	家族の子どもに対する思いや健康障害に関する不安について述べられない。	D	0
9. 子どもの不安や苦痛の緩和に向けた援助ができる。	子どもや家族の理解度に応じたプレパレーション・ディストラクションが実践できる。	A	5
	子どもや家族の理解度に応じたプレパレーション・ディストラクションがほしい実践できる。	B	4
	子どもや家族の理解度に応じたプレパレーション・ディストラクションが少しでも実践できる。	C	3
	子どもや家族の理解度に応じたプレパレーション・ディストラクションが実践できない。	D	0

項目	評定尺度	評定	
10. 成長・発達に応じた遊びを提供できる。	安静度や疾患を考慮し、子どもに適した遊びができる。	A	5
	安静度や疾患を考慮し、子どもに適した遊びがだいたいできる。	B	4
	安静度や疾患を考慮し、子どもに適した遊びが少しでもできる。	C	2
	安静度や疾患を考慮し、子どもに適した遊びができない。	D	0
11. 治療・処置に伴う援助が実施できる。	子どもに応じて治療や処置を安全・安楽に行うための援助ができる。	A	5
	子どもに応じて治療や処置を安全・安楽に行うための援助がだいたいできる。	B	4
	子どもに応じて治療や処置を安全・安楽に行うための援助が少しでもできる。	C	3
	子どもに応じて治療や処置を安全・安楽に行うための援助ができない。	D	0
12. 子どもの安全に配慮できる。	子どもの発達段階や行動から危険を予測し、安全に配慮できる。	A	5
	子どもの発達段階や行動から危険を予測し、だいたい安全に配慮できる。	B	4
	子どもの発達段階や行動から危険を予測し、少しでも安全に配慮できる。	C	2
	子どもの発達段階や行動から危険を予測し、安全に配慮できない。	D	0
13. 分析した結果から、子どもの全体像を捉えられる。	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できる。	A	4
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについてだいたい整理できる。	B	3
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて少しでも整理できる。	C	2
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できない。	D	0
14. 計画に基づいた援助が実施できる。	計画に基づいて実施できる。	A	4
	だいたい計画に基づいて実施できる。	B	3
	少しでも計画に基づいて実施できる。	C	2
	計画に基づいて実施できない。	D	0
15. 援助した結果を評価・修正できる。	援助の結果を対象の健康障害や発達段階をふまえて評価し、計画を修正できる。	A	4
	援助の結果を対象の健康障害や発達段階をふまえて評価し、計画をだいたい修正できる。	B	3
	援助の結果を対象の健康障害や発達段階をふまえて評価し、計画を少しでも修正できる。	C	2
	援助の結果を対象の健康障害や発達段階をふまえて評価し、計画を修正できない。	D	0
16. 小児看護の役割を述べることができる。	述べられる。	A	5
	だいたい述べられる。	B	4
	少しでも述べられる。	C	2
	述べられない。	D	0
		合計	70

《態度》

項目	評価のポイント	A	B	C	D		
1. 熟考性	・疑問、関心、興味あるものについて、文献を活用して学習できる。 ・日々学んだことや、問題点、疑問が放置されことなく学習され、実習に活かされている。	5	3	2	0		
2. 積極性	・課題達成、よりよい看護に向けて、積極的に学習し、主体的に行動できる。 ・カンファレンスのテーマに沿って、積極的な発言ができる。 ・自分の意見を述べることができる。 ・技術習得に向けて、評価を受けている。	5	3	2	0		
3. 責任性	・看護師、他の医療従事者、教員に正確に連絡・報告・相談できる。 ・時間や決まりごとを守ることができる。(記録物の形式、欠席・欠課の対応、提出物など) ・健康管理ができる。 ・援助や実技練習の際は、準備から後片付けまで責任もって行える。	5	3	2	0		
4. 協調性	・グループ内での協調的メンバーシップが取れる。 ・他者の意見を傾聴できる。	5	3	2	0		
5. 確実性	・行動計画の内容が適切であり、状況に応じて変更し、実習時間を意識しながら行動できる。 ・看護師、他の医療従事者、教員と調整、確認しながら実習できる。	5	3	2	0		
6. 誠実性	・誰に対しても言葉遣いは丁寧で、尊重した態度で接することができる。 ・看護を誠実にできる。 ・助言・指導を受け入れ、納得したうえで行動できる。	5	3	2	0	合計	30

<評定尺度>

A:よくできた B:できた C:少しできた D:できなかった

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

総合点	
-----	--